



色々な人たちと出会える
楽しみがあります。
理科に関わる仕事を
長年行なってきたので、
それを活かして活動
できる喜びがあります。

ボランティア・射落さん



2009 夏 千葉市科学館 ボランティアの声



受付やプラネタリウムの
誘導・案内をはりきっています。
声がかれるときもあるくらい、
がんばっています！

高校生ボランティア・柏尾俊平君

「不思議は面白い！ 不思議を探そう」

展示物の前で、来館者が「！？」の表情を見せてそのまま通り過ぎようとする時、「これは、こうやると…、何か見えませんか？」などと話しかけると、まさに「！！！」が始まることがある。その方と話が弾んで、その仕組みや類似の現象、応用のことなどに話が広がっていく。

そしてその会話の中でまた「へえー、どうしてだろう？」が生まれてくる。

私自身も長い間研究／開発に携わり、大変なことも多かったが、科学的に追求して「不思議の扉」を開けていく楽しさは尽きなかった。「不思議の扉」をなんとか開けて中に入ると、そこには別の不思議の扉が待ち構えている。これをクリアしたと思うと、また次の不思議の扉。不思議の世界は奥が深く広い。

科学館で来館者やボランティア仲間、職員の方と話していると、自分が意識しなかった不思議がたくさんあることにも気づく。「全く当たり前」と見過ごしていたことが突然「そういえば…、不思議だ。判らない」に変わる。新しい不思議の誕生である。

千葉市科学館は触れ合いの場である。より多くの来館者に、展示物を見たり触ったりして、また近くにいる職員やボランティアとおしゃべりしながら、たくさんの不思議の扉に気づき、その中に入る楽しみを味わっていただきたいと思いながら活動に参加している。 ボランティア・菊地克俊さん